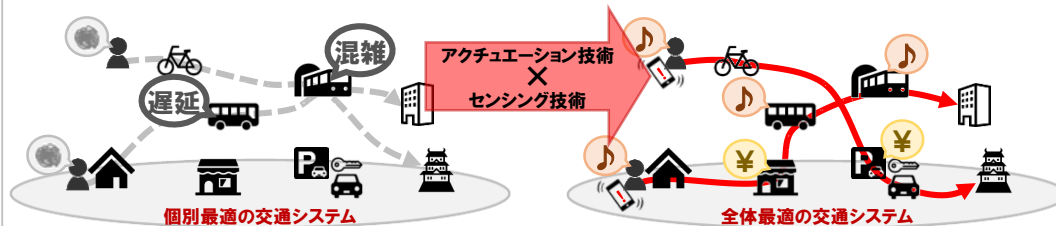
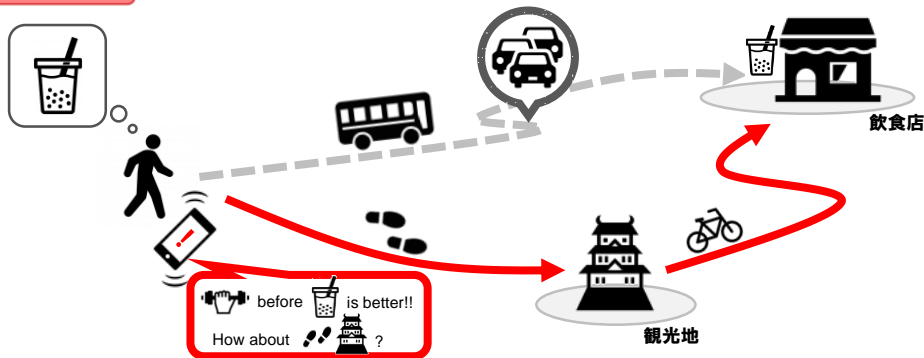


## 交通システムの全体最適制御

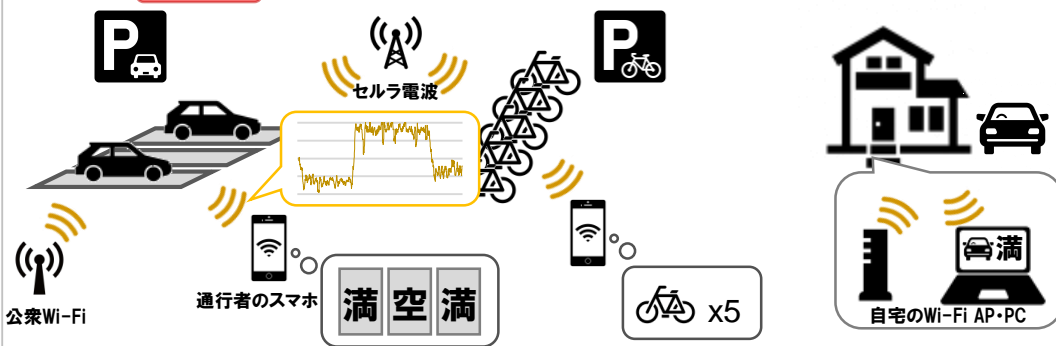
混雑緩和と送客により利用者の利便性向上と新規事業創出を目指す



## アクチュエーション 移動行動の変容をマルチエージェントシミュレーションで可視化



## センシング 既存設備の電波を利用し交通手段の存在を検知



## 提供価値

実証実験/PoC段階

- 交通機関の混雑度が平準化され、移動時の快適さが向上します。また、周辺施設への送客により新たな経済活動を生み出します。
- 事業者はMaaS展開に際し、安価に交通手段をモニタリングでき、提供する交通手段の管理や運用が容易になります。
- 利用者は自らの好みに応じたアクチュエーションを自然に受け、無意識に社会全体で移動行動が最適化されます。

## 概要

- 限定合理性に基づいて利己的に動くヒトに対し、利己的な行動が変容し、社会全体が最適化されるインセンティブやナッジを、シミュレーションにより明らかにします。
- 具体的には、マルチエージェントシミュレーションを用い個人の行動志向とインセンティブやナッジにより変容される行動との関係を可視化・明確化し、最適な制度設計を実現します。
- 既設の装置から得られる既存のデータを活用し、低コストに移動手段の存在有無を推定します。
- 具体的には、基地局や街中に設置されている無線LANアクセスポイントが発している電波を受信し、その電力を測定・解析することで、駐車場に停まっている自動車の有無や、駐輪場に停まっている自転車の有無などを推定します。

